

【講演会・研修会 派遣講師一覧】

※講師とプロフィールは、順次追加してまいります。

<家族会関係者・理事講師>

KHJ 理事長・佐々木善仁（ささきよしひと・いわて石わりの会）



1950年（昭和25年）生まれ。まもなく後期高齢者になります。2011年の東日本大震災で妻とひきこもっていた次男を亡くしました。災害大国の日本に居て、ひきこもりの当事者の命をどう救うが私に課せられた問題です。この課題と向き合いながら、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。KHJいわて石わりの会代表。昨年10月に生きづらさを抱える方々のための居場所「虹っ子の家」を開所しました。

KHJ 理事長・日花睦子（ひばなちかこ・大阪虹の会）



2016年に退職後、大阪虹の会の活動を通して、地元大阪府南部の泉州地域で、自治体、社協、協力団体と連携しながら、少しずつ協働事業を進めています。

家族会につながるまでは、ひとりぼっちでした。家族会の仲間と共に笑い合いながら過ごす時間に、たくさんの気づきをもらいました。ひきこもる子の母として、自分の感じている苦しさやしんどさこそ財産であり、未だどこにもつながっていないご家族に、ひとりにしない、ひとりにならない、ここに仲間がいる、そんな想いを届けたいと思っています。

現在は、大阪虹の会の家族・本人の居場所を仲間と運営しながら、自分の経験を元にしてピアサポーターとして、電話相談、個別面談、アウトリーチに対応しています。

KHJ 副理事長・題佛臣一（だいぶつしんいち・福井いっぽの会）



2009年に不登校・ひきこもり支援フリースペース居場所を開所する。さまざまな家庭環境の中には、ひきこもり者には精神障がい（発達障がい）を抱える若者が多いことから、2010年NPO法人化し、越前市で初のひきこもり者の就労支援（多機能型事業所A型・B型）を立ち上げる。

2019年次女の突然の死により福祉事業に方向性を展開する。制度の狭間で悩む方（ひきこもり者・障がい者等）への支援が行き届いていない縦割り行政のなかでひきこもり支援が進んでいないことから、当法人で、ひきこもり支援推進事業（ひきこもりサポート事業）・生活困窮者支援（就労準備支援）・参加支援事業等の委託を受け、訪問（アウトリーチ）・居場所・就労体験・一般就労へと一貫した支援体制（安心～自信～希望）に向けて取り組む。

現在、福井県ひきこもり支援アドバイザー

KHJ 事務局長・小林幸弘（こばやしゆきひろ・茨城鹿行(ろっこう)地区家族会)



1949年生まれ。

茨城県銚田市在住。ひきこもり不登校を考える鹿行の会（KHJ茨城/鹿行地区家族会）を2017年立ち上げた。新潟大学教育学部教育学科卒業。東京都公立学校教員として40年勤務。調布市教育研究所相談員。2012年茨城に移住。水戸市総合教育研究所委嘱による中学校相談室勤務、10年。茨城県家庭教育支援員。銚田市訪問型家庭教育支援員。◆地域で学習会講師を務める；「怒鳴らない子育て」「子どもの自律、自己肯定感を育む子育て」「息詰まった親子関係の回復のために～{コーチング×カウンセリング×脳科学}の視点から、対話のあり方を考える」。日々、子

育てやひきこもり・不登校相談に取り組む。

KHJ 理事・矢田初恵（やだはつえ・岡山きびの会）



共働きで3人の子育て。仕事は、主に障害者相談員。きびの会設立当初から歴代会長から学んだ。現在は、次男と同居。
社会福祉士、精神保健福祉士。

KHJ 理事・國吉大介（くによしだいすけ・沖縄ていんさぐぬ花の会）



30歳で社会参加。キャリアコンサルタント、産業カウンセラー。普段はこども若者支援に従事している。サポートステーションや特別支援学校勤務経験。沖縄民謡音楽協会教師。家族が健やかになること、参加者が自身の成長を喜び、人生の可能性を見いだすことを目標に家族会活動に携わっている。

KHJ 本部事務局所属 ソーシャルワーカー・深谷 守貞（ふかや もりさだ）



上智大学文学部社会福祉学科卒業 社会福祉士
大学卒業後、社会福祉法人東京都社会福祉協議会に入職。30代前半で免疫系希少難病に侵されるが、発症当初は病因不明とされ、心身症による精神疾患と誤診を受ける。誤った診断・服薬等が高じて事業に従事できなくなり、東京都社会福祉協議会を退職。向精神薬の過剰投与により幻聴・幻覚が生じるまでになり、更に自身の生きづらさに囚われて2年以上ひきこもる。

KHJ 東東京支部「楽の会リーラ」の居場所参加をきっかけに、社会復帰に至った。

2014年より「特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会」本部・ソーシャルワーカーとして、ひきこもり支援・ソーシャルワーク業務に従事。

現在、支援者向けの研修会等の企画運営、ひきこもり・家族会に関する調査研究事業、

ひきこもり世帯、8050世帯へのソーシャルワーク業務等に従事。

「KHJひきこもり兄弟姉妹の会」を毎月担当。

KHJ 広報アドバイザー・池上 正樹（いけがみ まさき・KHJ 兄弟姉妹オンライン支部）



KHJ 広報アドバイザー、KHJ 兄弟姉妹オンライン支部長、一般社団法人SHIPひきこもりと共生社会を考えるネットワーク代表理事、ジャーナリスト

約30年にわたって「ひきこもり」関係を取材、数千人の本人たちと関わる。Yahoo!ニュース「ベストエキスパート2025」グランプリ受賞。また、「KHJ 全国ひきこもり家族会連合会」を発足当初からサポートし、各地の地域家族会や家族の相談にのってきた。KHJ 広報アドバイザー。当事者の兄の立場としてKHJ 兄弟姉妹オンライン支部支部長も務める。一

一般社団法人「SHIPひきこもりと共生社会を考えるネットワーク」代表理事。各地の家族会支援や自治体の支援協議会の役職を歴任し、厚労省ひきこもりに関する地域社会に向けた広報事業企画検討委員等も務める。2012年から10年間開催した対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵」の設立メンバー。NHK『クローズアップ現代+』『あさイチ』をはじめ、テレビやラジオにも多数出演。Nスペドラマ「こもりびと」、NHK土曜ドラマ「ひきこもり先生」、NHKドラマ「星とレモンの部屋」などの監修も務める。著書は『ルポ「8050問題」～高齢親子“ひきこもり死”の現場から』（河出書房新社）、『ルポひきこもり未満』（集英社新書）、『大人のひきこもり』（講談社現代新書）、『ひきこもる女性たち』（ベスト新書）など多数。

KHJ 広報アドバイザー・上田 理香（うえだりか）



公認心理師。現在、KHJ 広報アドバイザー。

20代の頃、断続的な親子二重の社会的ひきこもりを経験。2012年より、KHJ 全国ひきこもり家族会連合会にて、全国の家族会立ち上げ支援、ピアサポーター事業、対話交流会などを企画運営実施。KHJ ジャーナルたびだち副編集長（91号～109号まで）

NPO 法人楽の会リーラ（KHI 東東京支部）理事として、都内32か所の地域家族会にて、本人家族への相談、親の学習会などを担当。市民向けの講演会や家族教室への派遣多数。

2019年より、東京都ひきこもりに係る支援協議会委員。家族や本人の居場所の必要性、全世代でのひきこもり、生きづらさへの理解促進に寄与している。

家族向けパンフレット「ひきこもり 笑顔への一歩」（東京都発行）責任編集（無料ダウンロード可能）。共著に「ひきこもり大学」（潮出版社）。

一般社団法人 SHIP ひきこもりと共生社会を考えるネットワークを発足（代表理事）。私たちの社会課題を考える情報誌、季刊「SHIP!」を2025年4月1日に創刊。

KHJ 監事・田口 ゆりえ（特定非営利活動法人 KHJ 埼玉けやきの会家族会 代表理事）



現在の新潟大学医学部保健学科卒。看護師として大学病院などで勤務。次男のひきこもり経験を期に2006年埼玉県ひきこもり親の会に参加。2009年にNPO法人化し代表に就任。

月例会、学習会、個別相談、CRAFT 認知行動療法を応用した相談支援、無料電話相談、居場所、兄弟姉妹の会、グループ相談会、B型就労支援機関との連携、など取組みを拡充し日々精力的に活動を展開している。面談、電話相談は埼玉県の委託事業でおこなっている。

ひきこもりの主な原因は社会的環境要因によってもたらされるが、結果的に家族関係に悪影響を及ぼす。

「ひきこもりの回復にとって大切なこと、それは、親子の愛情を立て直し、保持しつづけること。そのために家族会がある」という信念のもとに家族への支援を第一に掲げて活動している。

自身の体験と多数の相談支援を通し、習得と研究と実践を積み重ねている。

KHJ 埼玉けやきの会家族会を主宰する他に、各地の家族会や行政機関で講演・研修をおこない、ひきこもりの理解促進と対応力向上のため、啓蒙活

動を実施。親として当事者との関わり方の工夫や親亡きあとのマネーぷらん等、話の内容が実践的・具体的で分かりやすいと定評がある。

1949年生まれ。新潟市出身。29歳にさいたま市へ転居。

人生のモットーは「コシヒカリのように粘り強く」

大切にしている言葉は「ネガティブケイパビリティ」

著書「親亡きあとの子のマネーぷらん」「学習会記録集」「親によるひきこもり回復の参考書」

埼玉県ひきこもり対策連絡協議会委員。さいたま市ひきこもり対策連絡協議会委員。

NPO 法人なでしこの会理事長 田中 義和（たなか よしかず）



1951年生まれ。ひきこもる子どもの親として、2008年からなでしこの会に参加。

現在、愛知県ひきこもり支援推進会議委員、あいち就職氷河期プラットホーム委員、名古屋市精神保健福祉審議会ひきこもり支援方針対策部会委員、豊明市ひきこもり地域連携会議委員、名古屋市南区社協・社会参加支援プロジェクト委員。

東京教育大学教育学部心理学科・同大学院修士課程修了（発達心理学専攻）

市立名寄大学、福島県立会津大学を経て、桜花学園大学・同大学院教授
2017年退職 現在 桜花学園大学大学院人間文化研究科講師（非常勤）

長岡崇徳大学 客員教授 斎藤 まさ子（さいとう まさこ）



新潟大学大学院法学研究科卒業。法学修士。

地域で事例検討会を定期的開催し、支援者同士の支援の輪づくりをしている。また、家族会や支援機関と協働で活動をしている。

著書は、「ひきこもり家族会と地域との有機的な連携構築に向けて」編著（ウエストーン）など。

神戸市看護大学 教授 船越 明子（ふなこし あきこ）



児童・思春期を対象とした精神科病棟および精神障害者を対象とした訪問看護の臨床経験から、精神的な困難を抱える若者とその家族への支援をテーマに研究活動を行っている。

ひきこもり状態にある人の家族への支援については、ライフワークとして取り組んでおり、家族会、ひきこもり地域支援センター、保健センター等で講演や助言活動を行っている。

著書に「ひきこもり親の歩みと子どもの変化」（単著、新曜社）、「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（共著、金剛出版）、「子どものこころを育むケア～児童・思春期精神科看護の技」（編著、精神看護出版）、「こころの扉が開く ひきこもり状態にある本人と家族への訪問支援」（共著、医学書院）。

ヒューマン・スタジオ代表兼相談員 丸山 康彦（まるやま やすひこ）



藤沢市社会福祉協議会アドバイザー。

高校時代の不登校と大学卒業後のひきこもりを経て、2001年10月に「ヒューマン・スタジオ」を設立。

2003年度から不登校・ひきこもり相談室とし、家族相談や家族会を中心に定期イベントや連続講座など多彩な業務を通じて理解と対応のあり方を伝えている。現在「藤沢市社会福祉協議会」のアドバイザー（相談・ソーシャルワーカー支援）やひきこもり当事者会「ひき桜」運営メンバーなど幅広く活動。

著書『不登校・ひきこもりが終わるとき』は実売1万部。講演多数